

ご紹介いただきました、高森町長の熊谷元尋と申します。どうぞよろしく願いいたします。

皆さんは、4月1日から市役所や町村役場に新規採用され、もうすでにいろいろな研修を積んでいらっしゃると思います。今日も夕方4時まで、そしてまた明日も終日研修ということで、大変ご苦労さまだと思いますけれども、今日ここの会場に入ってきて、皆さん本当にきちんとされているし、すがすがしい。私も新鮮な気持ちを思い出したところです。

先ほど1時間くらいの話ということでしたけれども、明日も研修があるとのことですので、1時間は掛かりません。できるだけ早く終わりたいと思います。また余った時間は、何かご質問があればお受けしたいと思います。

先ほど、高森町を紹介していただきました。市田柿というものを皆さんもご存じだと思います。市田柿は干し柿で、高森町はその発祥の里ということですが、市田柿が高森町から生まれたということは、あまり世間では知られていないようです。市田柿は地域ブランドとして有名になってきて、東京の大手百貨店でも取り扱っていただいています。市田柿は知っているけれど、高森町というのはどこにあるのか知らないという方がほとんどです。ですから、バイヤーさんと市田柿の話をして、市田柿だけではなくて、高森町がどこにあるのだということをもっと広く知ってもらうことが必要ではないか、というアドバイスをいただいています。

皆さんの市や町や村にもあると思いますけれども、高森町は、町民の皆さんからの提案で「柿丸くん」という「ゆるキャラ」を作りました。皆さんのところにも「ゆるキャラ」があり、「ゆるキャラグランプリ」にエントリーし、それぞれのキャラクターに投票されると思いますが、ぜひ「柿丸くん」も覚えておいてください。

今日、皆さんにこのように集まっていただいて、お話をさせていただくのですが、大した話ばかりではないと思います。皆さんが、これから専門の先生よりテキストに沿って、地方公務員はどうあるべきか、というような話も聴くと伺っています。そこで私からは、ふだん役場の中で職員と接したり、あるいは町民の皆さんと接したりする中で感じていることを、どちらかという、役場の職員との日頃からの会話、あるいは一杯飲みながら、という程度の話ですので、ぜひ気軽に聴いてください。もし間違っているところがあれば、専門の先生から指導していただきたいと思いますが、いい・悪いは別にして、それぞれ感じ方があります。私がどう思っているかということについてお話をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

私は、1月に選挙がありました。3期目ですけれども、無投票で当選することができました。1期が4年ですので、すでに8年終わって、今9年目に入りました。この9年の間、職員の力を借りながら、高森町に何とか元気を出していきたい、そのような思いでまちづくりに取り組んでまいりましたが、まだまだ高森町が十分元気が出たところには至っておりません。

選挙の後、町民の皆さんの中には、しっかりとした自分なりのブレインを持ったかどうかというような提案をしてくれる方もいます。

ただ、私は、自分の選挙に応援してくれた人だけのために町政を預かっているわけでもないし、私に対して批判・批評をしてくれる人たちも町民の一人です。自分が好みのブレインを抱えた時に、その人たちの言うことだけを町政に反映していくというようなことは、私は違うのではないかと考えています。私の一番のブレインは役場にいる職員だろうと考えています。職員が専門的な知識を生かして、まちづくりに関わる。いろいろな自分の経験に基づいて提案をしてくれる。そして、職員が右か左か迷った時の判断、最終的な判断は私が出す。それで町政を運営していく

というようなことでいいのではないかと考えています。そして、町の中でごく限られた人たちの意見・・・そのようなものだけを反映するのではなくて、1万3,500人の町民のために一生懸命やっていきたいと考えています。

今日このような機会をいただいたことは大変ありがたいと思っています。今日ここに、何人なのでしょう、百何人集まっていらっしゃると思いますが、私が今日ここで皆さんの前でお話させていただくということは、きっと何かご縁があったのだと思っています。私がこのメンバーの皆さんを相手にお話をするなどということは、今後、絶対に無いと思っています。皆さんが一堂に会する、今日のメンバーがまたこの会場に集まるということも絶対に無いわけですし、ぜひ今日、私の話はともかくとして、ここでの皆さんの新しい出会いを大切にしてください。そして、それぞれの市役所や町村役場へ帰った時にも、同世代・同期の仲間として、力を合わせ協力し合う事が、きっとあると思います。お互いがライバルであると同時に仲間ですので、いつまでも大切にしてほしいと思います。

かつて全国には、市町村・自治体というものが3,200くらいありました。今から10年くらい前です。平成16年頃、「平成の大合併」という動きがありました。今日この会場に来ている皆さんの市や町や村でも合併されたところがあると思います。長野県全体は合併があまり進まなかった。特にこの伊那谷というところは合併をしたくてもできない、山あり谷ありというような地形的な問題もあって、なかなか合併が進まなかった地域です。現在は、10年経って全国の自治体の数が1,700くらいになっています。およそ半減です。

今日は、上伊那の方もいらっしゃいますけれども、飯田・下伊那というのは、四国の香川県や大阪府に匹敵する広大な面積があります。この広大な面積、香川県には一つの市しかないかという、そのようなことはないと思います。大阪府もいろいろな市や町がありますので、この飯田・下伊那地域が一つになることが本当にいいのかどうか、当時、真剣に議論されて合併に至らなかったという背景があります。

先日、高森町と友好都市である静岡県御前崎市へ行ってきました。御前崎市は、平成16年に二つの町が合併をして誕生しましたが、その10年の記念式典を実施するというので、招待されたのです。そのとき控室には、近隣の菊川市や、島田市、掛川市、相良市の市長さんもお見えになっていました。その際、自然と合併の話になりました。市長さんからは、面積ばかり広がって、合併した市や町や村同士の一体感というものはなかなか出せない、10年経過しても出すことが難しい、というような悩みのお話を聞くことができました。合併した自治体は、どこも同じような状況だろうと思います。合併して良かったとの声は、少ないのではないのでしょうか。

高森町は昭和32年に合併して50年以上になります。当時の市田村と山吹村が合併して高森町になったのですが、50年くらい経たないと、なかなか一つの町として一体感が生まれてこないのかもしれないです。ですから、10年間くらいでその合併の評価をするというのは、もしかしたら早いかもしれません。けれども、合併された市や町の職員の皆さんは、これからは住民の一体感をどのようにして出していくのかと？いうことをしっかりやっていただくことがとても大事ではないかと考えています。

皆さんが市役所に入ったり町村役場へ入ったということ・・・これが本当によかったのかどうかは、まだまだこれから何年か経たなければ結果が出てこないのだと思います。ただ、皆さんは既に、市であれば、何々部というところ、あるいは部の中でも担当の係があると思うのですけれど

ども、高森町の役場であれば何々課というところに係があつて、その担当ということで既に皆さんは配属されていると思います。

「4月に入ったばかりだから、私は仕事のことは余り分からない」ということを仰ると思います。確かにそのような面はありますが、町民の皆さん・市民の皆さんは、職員の皆さんが4月1日に入庁して、仕事のことを分かっている、或いは分かっているということとは関係ないのです。この件の担当なのだと。例えば、ごみの担当をやっているならば、住民はごみに関することについて聞いてくると思います。

「私は分かりません」と、分からないことを素直に「分かりません」ということはもちろん大事ですけれども、その担当ということになれば、その仕事については市町村を代表してやるわけです。ぜひ、分からないところは上司に聞くなりして責任ある仕事をしてほしいと思います。

今、私も含め公務員に対する風当たりは確かに強いと思っています。色々なことも言われます。民間企業であれば会社が倒産することは当然ありますが、公務員になれば、市役所や町や村の役場などは倒産することがなく仕事が安定している。そのことで「親方日の丸だな。やることはお役所仕事だな。」というような批判も浴びた時代もあったと思います。

でも、今は、役所も破たんする時代になってきています。皆さんもご存じだと思いますけれども、北海道の夕張市は自治体として破たんをしたというようなことで、住民サービスが低下したり、あるいは給料がカットされたり、本当に厳しい再建の道をたどっています。ですから今、かつてのような自治体間の横並びという意識を私は持たないし、皆さんも当然無いわけです。自治体間同士の競争というような厳しい時代になっています。いかにこの難しい時代を乗り切っていくのかということ、市役所であろうと、町村役場であろうと同じで、みんなが一緒になって力を合わせて乗り切っていかなければなりません。そのような難しい時代を迎えているということ、ぜひ承知しておいていただきたいと思います。

皆さんも地元の出身であれば自治会というような組織があると思いますが、高森町でも、町の色々な仕事を自治組織の自治会長さんをはじめ皆さんにやっていただいています。このように住民の皆さんの協力がなければ、今の市町村を動かしていくことはなかなか難しくなっています。

公務員は、いろいろなことを言われ批判も受けますが、自治会の役員の方には、それぞれの任期の中で協力していただいています。ある時、自治会の役員をやられた方とお話した時の事ですが、その方がおっしゃるには、自分が自治会の役をやるまでは住民の一人として、「役場というところは……」あるいは、「公務員という人たちは……」というような批判的な目で見ているそうです。でも、いざ自治会の役員をやって役場の職員と接していろいろな話をする中で、「よくがんばってるよな。役場の職員って思っていた以上に仕事を一生懸命やってるじゃないか」ということが分かった。自分は役員をやってよかったということをおっしゃっていました。私たちからすると、本当にありがたいことだと思っています。

今までは行政だけでいろいろなサービスを提供できた時代もありましたが、今は財政的にも大変厳しくなっていますので、できるだけ自分たちでできることについては自分たちで、個人でもやっていただく「自助」ということになると思います。そして、個人ではなかなか難しいということについては、隣近所で協力し合いながら助け合ってやっていただく、地域も含めてやってもらう「共助」ということになります。それでも出来なければ、行政が出ていく「公助」というような仕組みを、きちんと作っていくということが、これからますます大事になってくるのではな

いかと思っています。

この地域でも人口が減少、そしてまた少子高齢化の時代を迎えています。先ほど、この飯田・下伊那地域は、四国の香川県や大阪府に匹敵する面積があるということを申し上げました。人口はというと、大体17万人弱なのです。16万5,000人くらいの人口がこの地域に住んでいる。2010年と2040年、この30年間のうちに、人口がどのくらい減っていくのかというような推計が出ています。2010年と40年を比べると、大体4万2,000人くらい人口が減ってしまうという厳しい数字も出ています。私は上伊那のことはよく分からないものですから申し訳ないのですが、飯田・下伊那ではそのような状況です。

4万2,000人というと、この飯田・下伊那の北部の地域、大鹿村・豊丘村・喬木村・松川町・高森町・・・この5つの町村の人口が大体4万2,000人です。ですから、30年後には、この5町村分の人口がごっそりなくなってしまう、減っていくというような状況です。このような厳しい人口減少、そして少子高齢化の時代を迎えている、そして財政状況も大変厳しくなっているというようなことを、しっかりと頭の中に入れておくことが、私たちも含めてとても大事なことだと考えています。

このような厳しい時代の中、皆さんもご存じのように、13年後にはリニア中央新幹線がこの地域を通ります。中間駅が高森町の近いところ、飯田市の上郷・飯沼という場所にできます。もう新聞にも出ていて皆さんもご存じだと思いますけれども、本年度中にJR東海の方では着工したいということで、いま計画が進んでいます。このような大きなプロジェクト、この地域を大きく変えていく可能性を秘めた大きなプロジェクトも動いています。

でも、リニア中央新幹線だけに期待していても、この地域がよくなるとは限らないと思います。大事なことは、今あるこの地域の伝統文化や、あるいは私たちの町でいえば、市田柿、そのような今あるものをいかに大事にしていくのか、そしてそれを活かしていく・・・そのようなことをリニア時代につなげていくことがとても大事だと思っています。

私たちは、これからリニア中央新幹線への様々な対応、特に飯田市や大鹿村、そのようなところは役場の職員も非常に苦勞されると思います。でも、私たちの苦勞は必ず解決できる、そのような苦勞だと思っています。

平成23年に、東日本大震災が起きました。そして、大きな被害が出ました。皆さんの中にはボランティア活動に行かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、募金で被災地を助けた方もいらっしゃると思います。以前、被災された南相馬市の市長さんが私たちの地域に来られたことがありました。その際「市長さん、大変ですね。これからご苦勞が多いですね」というお話をしましたら、市長さんは「確かに苦勞は多いかもしれないけども、こういった時代が大きく変化する、転換する時代に立ち合えることはとてもやりがいがある。そして自分は世界で一番いい南相馬市をつくっていくんだ、そういった気概を持ってやっていきたい」というようなことをおっしゃっていました。

私は本当にすごいなあと感じたのですが、皆さんはこれから役場に入って、市役所に入って、いろいろな苦勞があると思います。そして、リニア中央新幹線のような難しい課題もあります。でも、このような課題は、東日本大震災の問題に比べれば大した話ではないと思います。みんなで知恵を出し合って汗を流せば、必ず解決できる、その程度の問題ではないかと思っています。ぜひ皆さんも一生懸命頑張って、住民のために役に立ってほしいと思います。

役所や役場というところは、役に立つ場所なのです。住民のために「役に立つ所」だから役所というわけです。公務員は批判を受け、厳しいことを言われたりしますが、とてもやりがいのある仕事ではないかと私は思っています。

皆さんは今日このように公務員としての研修を受けていらっしゃると思いますが、皆さんは、今日 100 人いらっしゃれば 100 人とも、それぞれ、なぜ公務員になりたいのか、なぜ公務員を目指したのか・・・その思いは、もしかしたら違うのかもしれない。これから皆さんは役所に勤めます。いま人生 80 年、もう少し長いかもしれません。80 年ということ考えると、これから 80 歳になるには 60 年くらいあると思います。そのうち退職するまでは約 40 年くらい役場、市役所へ勤めることになると思います。60 年の 3 分の 2 は役所勤めというようなことで、人生の大半、役場へ勤める、役所へ勤めるのが人生そのものと言ってもいいぐらいの年数ではないかと思えます。

その中で、皆さんが市役所や町村役場で働く、自分は役所へ入って何をやるのだ、いろいろな志を立てて、きっと公務員の採用試験を受けたのだと思います。民間企業はなかなか厳しいから安定した公務員ぐらいになればいいや、というような思いではなくて、自分が公務員になって地域のために、住民のために、一生懸命頑張るのだ、公務員になったらこのようなことをしたいのだという思いを、きっとどこかに持っているのだと思います。

今は、役所へ行っても緊張感が先だって、本当に自分が公務員という仕事に合っているのかどうか分からないと思います。4 月 1 日から今日までの間に多少なりとも役所の仕事も関わったということで、「なんだ、役場ってこんなところか」と期待外れのこともきっとあったのではないかと思います。でも、これから、先ほど言ったように、40 年くらい役所に勤めるわけですので、常に自分が志したときの思いを、ぜひ持ち続けてほしいと思います。

私は役場へ入った 3 年目までの若い人たちと、明日一杯飲みます。それ以外に、町では駅伝大会がありますが、1 年目、2 年目、3 年目の人たちで 1 チーム出します。そのための決起大会でもう一回飲みます。そして、走ったその日に反省会ということで飲みます。1 年のうち 3 回くらい若手職員と飲みます。

今日皆さんは 1 年目で同じスタートラインに立ってはいるけれども、大体 3 年目くらいまでかなりの差が出てきます。同じように仕事をしていても、どうしても出てきます。これは皆さんたちの能力だけの差ではなくて、どのような人たちと巡り合うのか、いい上司と巡り合うということも、とても大事な要素だと思います。それと、いい仲間と巡り合える、このようなことも自分の能力を引き出すうえでは、とても大事だと思います。

高森町の役場にも、新卒という人だけではなくて民間企業に何年か勤めた人も入ってきます。同年代の人たちの中でも、もうすでに役場に入って 2 年・3 年経過している職員がいます。やはり、今年入った人たちと同じ年であっても、2 年・3 年経過している人たちは、その年数は決して無駄になっていないと私は感じています。ですから、皆さんと年は一緒だけれども、すでに公務員として働いている人に、すぐ追いつくということはなかなか難しいけれども、1 年でも早く追いつくような努力をしてほしいと思います。

それぞれの役所の中でも、上司や理事者との関わり、いろいろな関わり方があろうかと思いますが、ぜひそのような人たちとも身近に接してもらいながら、上司ともいい関係を作ってもらって、皆さんの持っている能力を引き出してもらうことはとても大事だと思います。しかし、上司に求めるだけではなくて、自分たちも積極的に関わっていくこともとても大事だと思います。

皆さんは公務員になりたいという目標はあったと思いますけれども、公務員になることを目的にしているわけではないと思います。3月の甲子園選抜大会に、愛知県からは豊川高校というところが出ました。多分、初出場だったと思うのですが、結構頑張りました。その高校も、「やはり甲子園に出ることは目標だけでも、目的っていうのは、いい人間・いい人づくりをすることだ」と監督さんがおっしゃっていました。皆さんも一緒だと思います。公務員になることが目的ではないのです。公務員になることは目的ではなくて、目標ではあってもいいけれども、あくまでも目的は市民・町民の皆さんのために一生懸命働ける職員になるということではないかと思っています。また、そのような仕事を通じて、皆さん一人一人が人材育成といいますか、人間として成長していくことがとても大事なことではないかと思っています。

これから皆さんは、多くの人と出会うと思います。会社を経営されていらっしゃる方、あるいは、今日の研修会場の近くに合同庁舎というところもあります。あのようなところへ行くと、地方事務所の所長さんや県の職員もいらっしゃる。また、皆さん、機会があれば長野の県庁の方にも行かれることも、きっとあると思います。そのときには県の部長さんや課長さん、もしかしたら知事、副知事といった人たちとも、お行き会える機会がこれから先出てくると思います。そのように、多くの人と出会える、話をさせていただけるというのは、やはり皆さんが市役所や町村の役場へ入っているからできるのだと、私は思っているのです。

市役所へ入って、町村役場へ入ったことで、先ほど言ったように、何々部や何々課、そして何々担当という、やはりそれなりの肩書ができる。そのような肩書があるから、会社の皆さんも頭を下げてくれます。皆さんたちにそのような肩書がなければ、企業経営者が、初めて大学を出てきた皆さんに対して、そんなに頭を下げて挨拶をしてくれたり、話をしてくれることはきっと少ないのではないのでしょうか。県の職員も、皆さんたちにそれなりの肩書があるから、対等に話をしてくれたり、皆さんの意見も聞いてくれたりするのだと思います。

それは私も同じで、私には高森町の町長という肩書があるし、市であれば市長さんという肩書があるし、村であれば村長さんという肩書がある。このような肩書があるから大勢の皆さんがお話をしてくれたりするわけで、この肩書がなかったら、県へ出かけていっても知事、副知事、部長さんたちが、今ほど親しく話をしてくれるなどということはないのだろうと思っています。

ですから、私も含めて、公務員というものは決して偉いわけではない。肩書があるからお付き合いをしてくれるだけであって、私はこの町長という職が終わったときに、いかに大勢の人たちが、町長という肩書がなくなっても親しく接していただくことができるのか、そのようなことがとても大事なことだと思っています。ですから、高森町の職員にも、肩書がなくなって一般の町民に戻ったときに、いかに大勢の人たちが同じように接してくれることができるのか、そのことが大事だという話をしています。ですから、皆さんはこれからですから、公務員になったことだけで他の人と違うのだというような思いだけは、ぜひ持たないようにしてほしいと思います。

次に、大勢の人と出会うような時に注意をした方がいいという話をします。これは公務員の皆さんとは違うのですけれども。高森町には、毎年8月に明治大学の硬式野球部の皆さんが合宿に来てくれています。8月の月上旬から10日間くらい、町の研修施設に泊まって飯田市にある県営球場で練習されます。その時には、学生だけではなくて、明治大学の野球部のOBでプロ野球経験者が、野球部のコーチとしていっしょに来られます。

コーチは年配の皆さんですが、その皆さんと話をしていると、プロ野球の世界には明治大学

から入った選手でも、なかなか芽が出ない選手もいるわけです。2軍生活が長かったりということで腐ったりすることもあるらしいのですけれども、OBである先輩の皆さんが野球解説者などで取材に回っていった時に、OBの皆さんは明治大学の野球部の選手たちには、「一生懸命やりなさい。今芽が出なくても一生懸命がんばってやりなさい」というようなことをずっと言っているそうです。

プロ野球の世界で日の当たる1軍で活躍できる、1軍に出て成績を残せる選手というのは、ほんの一握りであり、一軍で活躍できなくてプロ野球の世界を去っていく選手の方が多そうです。だから、そのような選手には、本当に一生懸命やりなさいと。必ずどこかで人は見ている。だから、一生懸命やっている姿を見ていれば、たとえ野球の選手として成功しなくても、次に解説者、コーチ、そのような役割が回ってくるので、とにかく一生懸命やりなさいという話をしてくるというような話も聞いております。

それと、やはり皆さんも色々な人との付き合いが、これからまた出てくると思います。その中で、プロの世界では、お相撲の世界でもそうだと思いますけれども、お相撲の世界には、タニマチという面倒を見てくれる、お金も多少、食事やお酒を飲み連れて行ってくれたり、いろいろな面倒を見てくれる。それと同じようなことが、プロ野球の世界にもやはりあるらしいのです。確かに会社を経営されている皆さんの中には、プロの選手を引き連れて食事をするのがすごく好きな、それがステータスのように感じる方もいるようでして、そのような方たちとの付き合いに気をつけなさいということ、OBの方たちはおっしゃっています。

それはどのようなことかという、1回目は食事に行ったり、飲みに行ったときには、まだ「何々さん」ということで呼んでくれるそうです。それが何回か重なってくると、次は「何々君」という呼び方になるようです。さらに何回も接待をされると、最後はもう呼び捨てで「熊谷」と、最初は「熊谷さん」、そして途中から「熊谷君」、最後は「熊谷」と呼び捨てにされて、いろいろ言うことも聴かなくてはならなくなってしまう、というような話も聞きます。

多分皆さんの中にはそのようなケースはまれだと思いますが、ぜひ色々な人との付き合いの中で、付き合いは大事だけれども、この人と付き合いとどうなのかな・・・というような危ないところがあれば、上司の人と相談したり慎重にお付き合いをするということも、とても大事ではないかと思うので、そのようなことも参考にしていただければと思います。

市町村にはいろいろな役割があると思いますけれども、私が職員と話をしていることは、誰のために何の仕事をしているのだということ、やはり知って仕事をしてほしいと思います。高森町の役場でも、これまで過去には、何のために仕事をやっているのだ、誰のために仕事をやっているのかという意識をあまり持たずに仕事をやってきたという時代もあります。それではいけないということで、高森町では行政評価という手法を取り入れて、この仕事は誰のために、どのような仕事をやって、どのような成果を求められているのだ、1年やってどのような成果が出たのだということ、お互いに確認し合いながら仕事をしています。

行政評価というものも取り入れて、まだ数年かしかたっていません。ですから、職場の50代や、40代後半くらいの職員の人たちは、このやり方に慣れていないのです。ですから、すごく面倒くさがりです。面倒くさいことに加えて、余分に仕事をさせられてはかなわないと、結構不満を持っています。ただ不満を持つてはいるようだけれども、渋々やってくれています。でも、新しく入ってきた職員の人たちは、もう行政評価をやるのが当たり前に思っていますので、特別負担に

は感じることなく一生懸命やってくれています。

ですから、慣れるということももちろん大事なわけけれども、これまで仕事をずっとやってきたことが全てだという意識ではなくて、やはり常に新しいものも取り入れながら、もっと、どのようにやれば効率的に仕事ができるのかというようなことなどを考えてもらいたいと思っています。また、公務員には前例ということも当然あります。そのようなことも、もちろん大事なのですが、先輩の皆さんがやってきた前例にとらわれた仕事が、本当に正しいのかというと、これは、かなりクエスチョンマークがつくと思います。

ですから、皆さんの新鮮な感覚で、これは変ではないかというようなことがあったら、ぜひ先輩たちにどんどん聞いてもらいたいのです。そうすると、先輩の人たちも、皆さんが言うことによって気付きも生まれてくるし、自分でも考えてくれる。そして、「やはり違ってたよね。みんなが言うとおりであったよね」ということで、仕事のやり方も変わってくると思います。

高森町でもいろいろな、新しい職員の人たちが気づいてくれたおかげで、仕事のやり方が変わったということもあるし、いざという時には、私たちの場合ですと、法律の専門家のところへ確認しに行って、後々に迷惑のかからないようなやり方をしていますので、ぜひ皆さんの新鮮な感覚を常に大事にさせていただいて、先輩の皆さんを動かしてほしいと思います。

11時ということで、今15分前になりました。そろそろ終わりにしなくてはいけないと思っています。最後にもう一つだけお話をさせていただきたいと思います。

私は8年前に町長になったときに、役場庁舎へ駐車場から来るときに、中学生が役場駐車場の雪かきをしているのです。高森は1月が選挙ですから雪が降る季節なのです。1月に駐車場のところに来ると、中学生が一生懸命雪かきをしてくれているのです。

高森の役場は当時、「高森の中学生ってすごいよね。中学校だけじゃなくて役場の駐車場まで雪かきしてくれて、本当にありがたい。高森の中学生はすごいよな。」などと言っていたのです。でも、それは元々、私に言わせれば「自分たちでやれよ。役場の人がなぜ雪をかかないんだ。中学生にかかせて『中学生はすごいよね。立派だよ』なんて言ってる場合じゃない。自分たちでやればいいじゃないか」と。役場の職員は、中学生が雪をかいてくれたところを、胸を張って堂々と歩いてきて「中学生は立派だ」などと言っている。

そのような感覚が公務員にはどうしてもあると思って、職員に言いました。職員は「じゃ、当番制にしよう」というようなことで当番制にしたのだけれども、当番制は1年間やってみて、やはり雪が降る時と降らないときがあったりして、公務員は公平性ということを大切にしますので、当番制を見直しました。今度は何センチくらい降ったらみんなで出てこようかということをやっているけれども、やはり気が利く職員はずっと出てきて一番早くからやっています。相変わらず気が利かない職員は、遅くに出てきて雪かきもしているのか、していないのか、分からないけれども、同じような生活をしています。

皆さんもぜひ、色々なところで、やはり公務員になって、これほどいいところに就職できたのだ、これほど居心地のいいところはないというような感覚には、なるべくならないようにしてもらいたい。常に今の新鮮な気持ちといますか、高い志を持って公務員になった、そのような思いを大事にもらって、ぜひ市や町や村のために、市民、町民、村民のために、頑張ってもらいたいと思います。これからいろいろなことがあると思います。様々な経験を積んで、それぞれがまた課長なり、市長なり、町長なり、村長を目指して、一生懸命頑張ってもらいたいと思います。



今日はこのような変な話を聴いていただいて、本当にありがとうございました。皆さんがこれから頑張ってくれることを心から期待して、私のお話を終わらせていただきます。本当にありがとうございました。